

## 南アルプスのコウモリたち

静岡県 RDB 哺乳類部会長 三宅 隆



カスミ網の横で、バットディテクターを持ち、コウモリを待つ

私が、静岡県版レッドデータブックの哺乳類調査の為、南アルプス（南ア）に足を踏み入れたのが、1997年の事である。林道東俣線沿いの椹島や二軒小屋をベースにして、当時東海フォレストの社有林道の、千枚林道や、東俣、西俣などに入れてもらっては、コウモリ捕獲のために、夜間カスミ網（コウモリは鳥獣保護法で全ての種類が捕獲禁止になっている。特にカスミ網を使用する場合は、環境大臣の捕獲許可をとる必要がある）を張って捕獲調査を試みてきた。それ以来、毎年必ず調査に入り、今年まで16年間に渡ってコウモリを調べてきた。

最初のころは、生息場所や、カスミ網を設置する適地がよくわからず、1頭も捕れないことが続いたが、回数を重ねるうちに、少しずつコツが掴め、捕獲頭数も増加していった。

コウモリは、超音波を出して、反射してくる音波で、地形や餌を識別する。カスミ網は、細く小さい糸で編まれており、暗い中だと我々人間の目にはほとんど判らないのだが、コウモリはそれを超音波で感知して、近くに飛んできて多くの場合、カスミ網の手前で、反転して逃げて行く。夜間、カスミ網の横にじっと座り、バットディテクターというコウモリの出す超音波を、人間の耳に聞こえるようにした小型の器械を使い、種類によって超音波の周波数や音は異なるのだが「パタ、パタ、パタ」という音を頼りにひたすらコウモリがカスミ網にかかるのを待ち続ける。運の悪いコウモリがカスミ網にかかったら、すぐに外さなければ



カスミ網にかかった、コテングコウモリ

ばならない。コウモリは逃げようとしてカスミ網を食いちぎっていくからだ。捕獲したコウモリは個別に袋に入れ、種類を判定し、性別、体重、前腕長などを測定した後、放してあげる。現在、日本の本州では21種類ほどのコウモリの生息が確認されているが、静岡県内では、静岡県版RDBでは14種類が記録され、その後の継続調査により県内初記録3種の確認もあり、今では17種類が記録されるまでになった。

特に南ア及びその周辺では14種類ものコウモリが記録されており、日本国内でも有数のコウモリの多様性の高い地域であることが判明している。

この地域で確認された種は、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、ノレンコウモリ、チチブコウモリ、ウサギコウモリ、モリアブラコウモリ、クビワコウモリ、ヤマコウモリ。このうち県内では南ア周辺だけで記録されているコウモリは、チチブコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、クビワコウモリ、カグヤコウモリの5種類がある。さらに調査を続けて行けば、もっと種類は増え、もしかしたら新種のコウモリが発見されることも夢ではないかもしれない。

これらのコウモリたちは、南アの豊かな大自然の森林に守られ、静かに種を維持し続け



チチブコウモリ 静岡県産としては  
約 100 年ぶりの発見



ノレンコウモリ 県版RDB発刊後  
記録された希少種



南アには多いヒメホオヒゲコウモリ



洞窟内のウサギコウモリ



県内初記録のモリアブラコウモリ



県内初記録のクビワコウモリ

てきたものであり、人間生活のための開発などによる環境変化は、これらの種の維持に大きな脅威となることは明白である。

現在、この地域は、ユネスコへのエコパークの申請をしており、その先に世界自然遺産登録を視野に入れ、保護や調査活動が進められている。

ところが、今、この南アの地下深く、JRによるリニア新幹線が通過する計画が持ち上がっている。地下を通るだけならまだいいのだが、それを通すために、二軒小屋周辺に、トンネルを掘るための斜抗や、掘り出した 360 万ト

ン余の土砂を、河川敷に堆積させるという話になっている。その工事期間は 10 年以上で 700 人余の作業員と数百台のダンプが毎日行き来するという。JRが提出した準備書による環境影響評価では、環境には配慮し、動植物への影響はほとんどないとしているが、自然と言うのはもろく崩れやすいものである。静岡県民の財産ともいえる、この大自然をいかに守っていただけるか、環境保全に最大限の配慮をすべきであり、コウモリたちが未来永劫住み続けて行けるように願っている。